令和2年7月1日発行

清涼 せいりょう

第11号

浄土真宗　本願寺派
清涼山　善教寺
〒663-8184　西宮市鳴尾町 4-10-7
0798(48)2224
www.zenkyoji.jp

※寺報の題字は親鸞聖人のご真筆より依用

いま聞くべきもの

新型コロナウイルス感染症が世界中にひろがっています。生活や経済への影響にとどまらず、私たちの命そのものにまで、深刻な影響を与えています。

思えば先行きの見えない、命の危険を感じながらの営みは、先達方がこれまで幾度となく経験されてきたことでした。浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の晩年の生活は、まさにそのような状況にあったことが、お手紙に記されています。

なによりも、去年・今年、老少男女おほくのひとびとの、死にあひて候ふらんことこそ、あはれに候へ。ただし生死無常のことわり、くはしく如来の説きおかせおはしまして候ふうへは、おどろきおぼしめすべからず候ふ。

このお手紙は文応元年（一二六〇）十一月十三日付けで、常陸の乗信房へ出されたお手紙です。日付の分かっている聖人の最後のお手紙として知られています。聖人が八十八歳の冬に書かれたお手紙ですが、そこには厳しい言葉で、私たちの命の事実について記されています。

この世に生を受けた瞬間から、私たちは死すべき命と定められている存在です。しかもその死は、いつどのようなかたちで訪れるか知れないことを、すでに釈尊は「生死無常のことわり」としてお説きになられました。だからこそ、「死なない者が死んだのではない。死すべき者が命を終えていったのであるから、それは決して驚くべきことではない」と、聖人はまことに厳しい言葉でおっしゃっていかれたのです。

実は、このお手紙を書かれた文応元年の前年は正元元年で、わずか一年で元号が変わっています。そして文応元年の翌年は弘長元年に改元されています。この時期、日本各地では天変地異が起こっていたからです。そのせいで全国的な大飢饉と疫病が蔓延し、老若男女、無数の方々が命を落としていかれる悲惨な状況にありました。そのような状況を眼前にしながら、最晩年の聖人が、渾身の想いを込めて書かれたのが先のお手紙だったのです。

ややもすると、生きていることを当たり前と思い、命を終えていくことを驚きと受け止めている自分がいます。しかし普段忘れがちになっていますが、本当に驚くべきことは、いつどうなってもおかしくない私が、いまここに生かされている事実でした。

だからこそ私たちは、自らの命の事実を、仏さまの教えを通して確認させていただくのでしょう。そして「後生の一大事」といわれる私のいのちの往き先を、「南無（まかせよ）阿弥陀仏（われに）」の仰せのなかに聞きうけていくのです。

変化してやまない無常の境界に生きる私、確かなものなど何一つ持ち合わせていない私だからこそ、確かな仰せが届けられています。新型コロナウイルス感染症の一刻も早い収束を願いつつ、いまここに届けられている「南無阿弥陀仏」の仰せを、あらためてわが身に聞かせていただきたいと思います。

副住職　赤井 智顕

ご家庭で回覧し、とじて保存くだされば幸いです。

お盆法要（歓喜会）

令和元年 8月3日・4日

浄土真宗のお盆は、仏さまと成られた亡き方を偲びながら、仏法（仏さまの教え）を聞かせていただく仏事です。今年も私の「いのち」の往き先、そして今は亡き懐かしい大切な方々がいらっしゃる「お浄土」のお話を、有難く聞かせていただきました。

お暑い中、2日間・計4座（回）の法要に、400名を超える多くの方々のお参りをいただきました。

1日目

清岡 隆文師のご法話

2日目

谷川 弘顕師のご法話

本年もご門徒の西野陽子様（里中町）より、参詣者のみなさまへ、「御供養400個」をお供えしていただきました。ありがとうございました。

準備

みなさんにお盆法要の準備をお手伝いいただきました。
ありがとうございました。

鳴尾町4丁目 ラジオ体操

毎年、夏休みに町内のみなさんがお寺の境内にラジオ体操にきてくださいます。早朝より音楽にあわせ、みんなで体を動かしイッチニ、イッチニ。今年の夏も暑かったですね。

ラジオ体操

秋季彼岸会

令和元年 9月16日

安方哲爾師をお迎えし、ご法話を聞かせていただきました。「彼岸（かの岸）」とは、迷いの世界（「此の岸」）に対するさとりの世界。私たちにとっては、阿弥陀さまのお浄土といただく言葉です。

お念仏の先人方はお彼岸のご縁を通して、お浄土へと先立って往かれた大切な方々を偲んできました。

報恩講

令和元年 11月9日・10日

報恩講は浄土真宗を開かれたご開山・親鸞聖人のご命日の法要です。親鸞聖人のご恩徳を讃えながら、お念仏の教えを聞かせていただく、浄土真宗のお寺で最も大切な法要です。

両日ともたくさんのお参りをいただき、お念仏のひと時を過ごしました。

1日目

天岸 浄圓師のご法話

2日目

淺田 恵真和上のご法話

住職から挨拶

キョウコエユウコによる
御堂演奏

善教寺パドマ合唱団による
御堂演奏

準備

みなさんに報恩講の準備を
お手伝いいただきました。
ありがとうございました。

令和元年 12月8日
成道会

藤榮行信師をお迎えして、
ご法話を聞かせていただきました。

令和2年 1月1日
元旦会

今年もご門徒のみなさんと新年を迎えさせていただきました。住職・副住職の法話に始まり、最後はお参りのみなさんと一緒にお正月の歌をうたいました♪

令和2年 2月16日
涅槃会

若林眞人師をお迎えして、ご法話を聞かせていただきました。涅槃会は2月15日にご入滅されたお釈迦さまをお偲びし、仏法を聞かせていただく法要です。

法要中止の報告

春季彼岸会　令和2年3月15日
花まつり　令和2年4月11日
宗祖降誕会　令和2年5月23日
永代経法要　令和2年6月13日

の法要は、新型コロナウイルス感染症が拡大している現状を鑑み、開催を見送らせていただきました。

ご予定いただいていました皆さまには、大変ご迷惑をおかけすることになり、誠に申し訳ありませんでした。

浄土真宗Q&A

葬儀と告別式は違うのですか？

一般的に葬儀と告別式を混用したり、同義にとらえたりする傾向がありますが、浄土真宗では本来、告別式という表現を用いないようにしています。

告別式は、亡くなられた方に別れを告げる儀式のことです。亡くなられた方とお別れする時間のみを告別式という場合もあるそうです。これには宗教的な意味あいは含まれていません。

浄土真宗における葬儀とは、仏縁にあうための儀礼であると考えます。仏縁にあうとは、亡くなられた方も遺された者も、だれもが平等に阿弥陀如来に救い取られるという、お念仏の救いに出あうということです。阿弥陀如来は救い取ったら、決して見捨てることはありません。なぜならば、阿弥陀如来のお心とは、私たちの悲しみをわが悲しみとし、私たちの苦しみをわが苦しみとする大きな慈悲の心だからです。

また浄土真宗では死を終わりとは考えません。この世の縁が尽きて、阿弥陀如来のお浄土に往生された方は、すぐさま仏さまに成られ、仏さまとして私たちを導いてくださるはたらきをはじめられるからです。したがって浄土真宗には、人の死を別れだけとは考えません。葬儀を執り行うことによって、阿弥陀如来に抱かれる人生を歩み、私もまた阿弥陀如来の浄土に往生し、仏さまに成らせていただくものだと、うなずいていくことが大切であります。

前田壽雄著『仏事Q&A　浄土真宗本願寺派』（国書刊行会）60～61頁引用

善教寺パドマ合唱団

コーラス
団員募集中

毎月2回・木曜日の14時からコーラスの練習をしています。
どなた様でも入団をお待ちしています。歌うことは健康には勿論のこと、仏教讃歌は歌詞もメロディーもとっても素晴らしいので心の健康にも良いですよ♪
（新型コロナウイルス感染症予防のため、現在、練習は中止しています。今後の予定に関しては直接、善教寺までお問い合わせください）

コーラスの指導をしてくださっている東埜 裕子先生

令和元年 11月23日

本願寺音御堂

毎年恒例の本願寺音御堂に、
今年もパドマ合唱団が出演しました。

令和元年 12月22日

善教寺パドマ合唱団 忘年会

合唱団のみなさんと年末恒例の忘年会を開催しました。ビンゴゲームや食事をして楽しく過ごしました。
みなさん、今年も一年お疲れさまでした♪

善教寺仏教壮年会 婦人会のご案内

善教寺仏教壮年会・婦人会への加入はいつでも募集中です。ご連絡をお持ちしています。仏さまのご縁で結ばれたみなさんと、楽しい時間を過ごされませんか?

善教寺
納骨堂のご案内

善教寺の納骨堂が安藤忠雄建築研究所設計のもと、昨年の10月から工事がはじまりました。本来でしたら今年の6月頃に完成予定でしたが、新型コロナウイルスの影響を受けて、完成は年内の予定となっています。現在、納骨堂とともに合同墓の工事も進んでおり、同じく年内に完成する予定です。

納骨堂の外観はコンクリートに曲線をつけるという、安藤忠雄氏が手がけられた数多い建築のなかでも、めずらしい特徴的な外観です。また納骨堂の中央には、ガラスで仕上げられた光かがやく仏さま（阿弥陀如来立像）が安置される予定です。

納骨堂と合同墓に関する詳細は、パンフレットを作成してあらためてお知らせいたします。

令和２年５月
現在の様子

完成予想図

令和2年 2月21日

安藤忠雄氏 来寺

安藤忠雄氏が現場確認のため、
善教寺へ来寺されました。

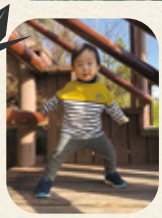
お寺のホームページ

お寺からのお知らせや今後の予定などに関しては、善教寺のホームページ（www.zenkyoji.jp）でも情報を公開しています。ぜひご覧ください。

新発意の成長記

副住職夫妻の長男・尊顕は幼稚園の年長組で6歳。次男・顕至は2歳になりました。長男は仮面ライダーが大好きで、毎日ライダーごっこにいそしんでいます。お兄ちゃんのことが大好きな弟も、兄につられていつの間にかライダー好きになりました（笑）。

毎日にぎやかにケンカしながらも、仲良く成長してくれています。今後ともお育てくださいますよう、宜しくお願いします。



※「新発意」は、「しんぽっち」や「しんぼち」と読みますが、元は発心して僧になったばかりの人や、仏門に入ってから間もない人を意味していました。それが転じて、お寺の子どもをさす言葉としても使われています。

お寺の風景

BOOK お寺の関連書籍

副住職が執筆に加わらせていただいた書籍、『智慧のともしび ―顕証寺本 絵ものがたり―』（共著）が、京都の法藏館から出版されました。本願寺第8代・蓮如上人のご生涯と教えに関する書籍です。ご興味のある方は、善教寺までお問い合わせください。

聖典勉強会

毎月1回・14時～

副住職が『阿弥陀経』の内容を、みなさんと一緒に読みすすめています。どなたさまもお気軽にお越しください。

（新型コロナウイルス感染症予防のため、現在、勉強会は中止しています。今後の予定に関しては直接、善教寺までお問い合わせください）

NHK文化センター（神戸教室）にて、「『歎異抄』に聞く～親鸞聖人の歩まれた道～」と題して、副住職が月一回（毎月・第4金曜日）出講しています。ご興味のある方はいつでもご連絡ください。

http://www.nhk-cul.co.jp/school/kobe/